

研究だより

入新井第五小学校
研究推進委員会
R4年9月8日(木)
第4号

6年 道徳 友情を深める「ロードレース大会の思い出」(B 友情、信頼)

9月8日(木)に第4回校内研究授業を行いました。主題は、「友情を深める(B 友情、信頼)」です。これまでの特別活動に加え、道徳を含む学習指導や生活指導を通して、児童は友達と互いに認め合ったり、助け合ったりする姿が見られるようになりました。しかし一方で、友達に嫌われたくないという思いから、自分の本当の思いを伝えることに躊躇する姿も見られます。そこで、友達を信頼し、互いに磨き合い、高め合うような、『真の友情』について考えさせたいという思いから今回の主題を設定しました。



【導入】本時に向けて、児童に事前アンケート「これまで友達がいてよかったと思ったことは、どんなことですか。」と質問し、友情について一人ひとりがどのように考えているのか確認しました。児童からは「物を拾ってくれて嬉しかった。」「いつも遊んでくれる。」など、してもらって嬉しかったことが多く挙がりました。しかし、果たして『自分に何かをしてくれる人が友達なのか。』『友情とは何か。』という問いかけをするところから、本時のねらいとする道徳的価値「友情」について考えていきました。

【展開(前段)】 ★教材「ロードレース大会の思い出」★

主人公の健太は、ロードレース大会に出場することになり、同じサッカーチームでライバル関係にある武志と一緒に練習をし、入賞を目指します。ある朝、2人で練習をしていると、健太は武志の走りに追いつけず、「もっと速いと思ったよ」という言葉に悔しさを感じ、練習をやめてしまいます。

数日後、すると、ライバルの武志が家にやってきて、「自分が頑張れているのは、ライバルの健太がいるから。」という言葉くれました。…発問①

→武志の言葉を受けて、「自分が力になれていたことが嬉しい」「2人でまた一緒に頑張りたい。」「次は負けない。」などと、悔しさの中にも、ライバルとして切磋琢磨して頑張りたいと思う健太の気持ちをよく考えることができました。

本番当日。健太と武志は思いをひとつに走り始めます。ゴール直前、健太を追い抜く武志。追いつこうと必死に走る健太。2人の全力の走りの末、武志が先にゴールします。表彰台に上がった武志を見つめて、自然と微笑みました。…発問②

→「負けて悔しいけれど、一緒に頑張ってきた武志が入賞できて嬉しい。」「2人で力を合わせて勝ち取った入賞だ。」「来年こそ、武志に絶対負けないぞ。」と、友達と認め合い、高め合い、よりよい友情を築けたときの気持ちを多面的に考え、深めることができました。互いに思いを伝え合い、握手を交わし合う2人。表彰台に上る武志を見て、自然と笑顔になる健太は、どんな気持ちになっているのでしょうか。一緒にがんばってきた友達への気持ちを考えました。

【展開(後段)】

友情を深められた自分自身の経験について振り返りました。児童からは、「今までも良きライバルがいたから頑張ることができた。」「これからも友達の存在を大切にしたい。」と、学校生活、習い事、スポーツなどの様々な場面における、自分にとっての『友達』『友情』についてじっくり考え、振り返ることができました。

【終末】

最後に、ライバルがいたから、今の自分がある。友情について映像で考えを深めました。

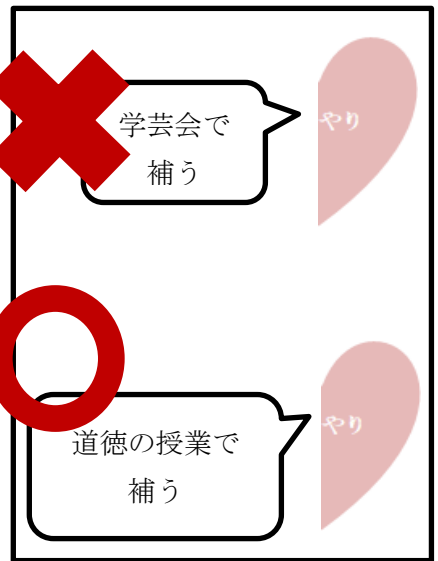
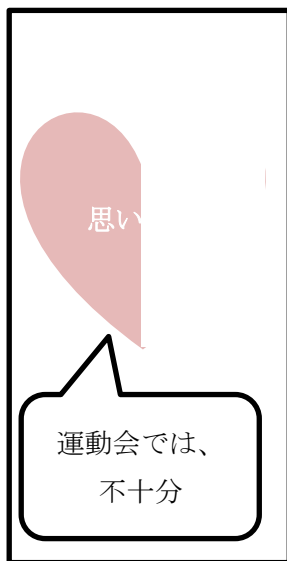
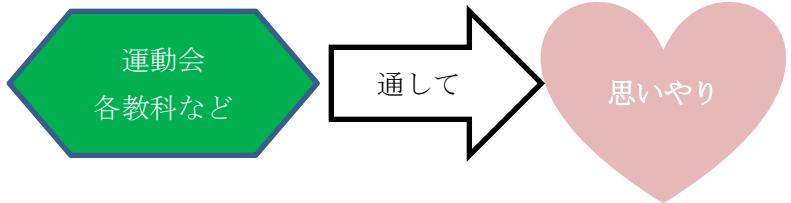
この授業を通して、『友達』とは、「物を拾ってくれる」「遊んでくれる」など、自分に対して何かをしてくれるだけの存在ではないことを学びました。協力して学び合う活動をしていく中で、互いに磨き合い高め合える存在、頑張りや努力を称え合える存在、本音でぶつかり合える存在…など、自分にとって友達がどんな存在なのかについて考えることで、これからも「真の友情」を築いていきたいという思いを深めることができました。



◎特別活動における道徳教育との関連性
 学校の重点目標が「思いやり」とします。その場合、「運動会を通してどのような思いやりの心を育めるか。」を考えて指導を行います。そうすることで、特別活動の特質を生かした道徳教育を行うことができます。これは各教科、総合的な学習の時間、その他の教育活動全般にもいえることです。

また、運動会を通して思いやりの心を身に付けさせることが不十分であると判断した場合があります。その際は、次の特別活動の機会である「学芸会」などで身に付けさせるものではありません。その時は道徳の授業を行うことで足りないと感じる部分を補ったり、深めさせたりするのです。道徳教育は学校の教育活動全体を通して行われるものです。そのため、日頃行う道徳教育の補充や深化のために、「特別の教科」として道徳の授業を行うことが大切なのです。

学校重点目標
「思いやり」



授業者の三浦先生にインタビューしました！

友達との関係を深めていくためには、その場だけを楽しく過ごすような表面上の付き合いを続けていても意味がありません。時には自分が嫌われることを覚悟して、間違っていることは間違っていると伝えることも必要です。また、信頼関係を築いていく中で、必要以上に気を使うことから本当の力を出さずに、相手に合わせて馴れ合いの関係になってしまうことが、「本当に素敵な友達」だといえるのかと問いかけると、子どもたちはどう答えるのでしょうか。

友達と過ごす時間が楽しいだけでなく、望ましい人間関係を築いていくためには、互いに声を掛け合い、助け合って活動していくことの大切さを指導しています。道徳の学習を通して育まれた心が、日常生活にも良い意味で影響してくれることを願っています。

